

児童生徒の成長を願って

副校長 佐橋 正智

この原稿を書いている夜の職員室、教職員の机の上に目を向けてみました。洞爺湖や有珠山の資料がいっぱい載っている机は高等部1年生、通路を挟んで隣にはミッキーマウスや東京のガイドブックが。ある教諭の机にはボードを四角く切った板が20枚程度、これは美術で使う教材でしょうか？ほかに、絵本が載っている机や専門書を並べている机、絵カードをたくさん入れたケースを置いている机もあります。明日の授業に思い巡らせながら、準備をしたのでしょうか。雑然とした机上ですが、どの机にも授業に一生懸命取り組む教職員の姿が浮かんで見えるようです。

学校とは、勉強をするところです。学校には、勉強の要素がたくさん詰まっています。人とのかわり、歌や楽器、絵本やビデオ、体育や自立活動、食事や調理学習等々、数え上げるときりがありません。たくさん詰まっている勉強の要素を、私たちは活かしているのか？学びのチャンスをきちんと捉えて指導できているのか？自問自答は永遠に続きます。

その答えはなかなか見つかりません。もちろん、最大限の努力はしていますが、結果につながらないことも多くあります。中には、効果の乏しい指導やねらいから少々ずれてしまう指導をしてしまうこともあります。9月は前期の総まとめの時期です。児童生徒それぞれへの熱い思いと冷静な評価が個別懇談で話されると思います。懇談の折に、お子さんの様子や変容、ねらいが達成できなかった理由や経過、次のステップで取り組むべき課題などを確認し合ってみてください。それらのひとつひとつが教職員の力となって、指導の充実につながるはずです。個別懇談で話されることは、お子さんの未来を語ることです。お子さんの未来を共有できることはとても大切なことであり、保護者と教職員がタッグを組むことができれば最強の支援チームができます！まずは小さなことから、背伸びのない共有と連携をこれからも進めたいものです。